

令和3年度 中間決算（連結）の概要

（単位：億円（単位未満切捨て））

区 分	令和2年度 上期実績 A	令和3年度 上期実績※1 B	対前年増加額・率	
			B-A	(%)
営業収益	4,345	4,736	391	9.0%
高速道路事業	3,949	4,532	582	14.7%
(料金収入)	3,449	3,701	251	7.3%
(道路資産完成高)	468	800	331	70.7%
(その他の営業収益)	31	30	△0	△2.5%
関連事業	422	242	△180	△42.6%
(SA・PA事業)	111	116	5	5.0%
(受託・その他の事業)	311	125	△185	△59.6%
セグメント間取引の消去	△27	△37	△10	-
営業費用	4,086	4,439	352	8.6%
高速道路事業	3,659	4,223	564	15.4%
(道路資産賃借料)	2,140	2,445	304	14.2%
(道路資産完成原価)	468	800	331	70.7%
(管理費用等) ※2	1,050	977	△72	△6.8%
関連事業	454	253	△200	△44.1%
(SA・PA事業)	142	130	△11	△8.2%
(受託・その他の事業)	311	122	△189	△60.6%
セグメント間取引の消去	△27	△38	△10	-
営業利益	258	297	39	15.1%
高速道路事業	290	308	18	6.3%
跨道橋耐震対策事業を除く※2 高速道路事業営業利益	[290]	[325]	[35]	[12.1%]
関連事業	△31	△11	20	-
経常利益	275	314	38	14.0%
親会社株主に帰属する 中間純利益	181	238	56	31.3%
跨道橋耐震対策事業を除く ※2 中間純利益	[181]	[255]	[73]	[40.5%]

当社においては、高速道路の料金収入は下期に比べて上期のほうが多く、管理費用は冬期の雪氷対策費用などにより、上期に比べて下期のほうが多くなる傾向にあります。

このため、高速道路事業における令和3年度上期の営業利益は308億円ですが、通期の損益見通しでは、76億円の営業損失を見込んでいます。（別添1参照）

※1) 令和3年度より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用しております。

※2) 高速道路の安全な交通を確保するため、自治体等が管理する高速道路を跨ぐ道路（跨道橋）のうち、ロッキング橋脚の橋梁に対する耐震対策事業を重点的に進めています。当該事業は高速道路事業の利益剰余金を原資とした「跨道橋耐震対策積立金」等を活用しており、営業収益には計上されない一方、管理費用等には含まれています。
参考として当該事業を除いた高速道路事業営業利益及び中間純利益を記載しております。

【参考】個別決算の損益概要

(単位:億円〔単位未満切捨て〕)

区 分	令和2年度 上期実績	令和3年度 上期実績	令和2年度 通期実績	令和3年度 通期見通し※1
営業収益	4,253	4,648	11,735	9,961
高速道路事業	3,920	4,504	11,216	9,579
(料金収入)	3,449	3,701	7,144	7,110
(道路資産完成高)	468	800	4,058	2,454
(その他の売上高)	2	2	14	14
関連事業	333	144	518	381
(SA・PA事業)	32	33	69	71
(受託・その他の事業)	300	110	448	310
営業費用	3,973	4,334	11,817	10,100
高速道路事業	3,625	4,182	11,272	9,696
(道路資産賃借料)	2,140	2,445	4,809	4,864
(道路資産完成原価)	468	800	4,058	2,454
(管理費用等) ※2	1,015	937	2,405	2,377
関連事業	347	152	544	404
(SA・PA事業)	44	41	93	91
(受託・その他の事業)	303	110	451	312
営業利益(△損失)	280	313	△ 82	△ 139
高速道路事業	295	321	△ 55	△ 116
跨道橋耐震対策事業を除く ※2 高速道路事業営業利益	[295]	[338]	[△ 45]	[0]
関連事業	△ 14	△ 8	△ 26	△ 22
経常利益(△損失)	315	345	△ 42	△ 104
中間(当期)純利益(△損失)	217	268	△ 56	△ 83
跨道橋耐震対策事業を除く ※2 中間(当期)純利益(△損失)	[218]	[285]	[△ 46]	[33]

※1) 令和3年度通期見通しは、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいており、多分に不確定な要素を含んでいます。実際の業績は様々な要素により、上記の計画と異なる可能性があることをご承知おき下さい。なお、令和3年度より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しております。

※2) 高速道路の安全な交通を確保するため、自治体等が管理する高速道路を跨ぐ道路(跨道橋)のうち、ロックンク橋脚の橋梁に対する耐震対策事業を重点的に進めています。当該事業は高速道路事業の利益剰余金を原資とした「跨道橋耐震対策積立金」等を活用しており、営業収益には計上されない一方、管理費用等には含まれています。参考として当該事業を除いた高速道路事業営業利益及び中間(当期)純利益を記載しております。

【参考】令和3年度上期のトピックス

【高速道路事業】

■安全で快適な高速道路の整備(4車線化)

平成28年より進めていた、常磐自動車道4車線化工事(いわき中央IC～広野IC間の約27km および山元IC～岩沼IC間の約14km)は、令和3年3月までに、大久川橋の前後(約4km)を除く区間の4車線化を完了しておりましたが、残る区間(約4km)も完成し、令和3年6月までに、すべての区間で4車線化事業が完了しました。



おおひさがわばし
大久川橋付近



常磐自動車道4車線化工事区間

■高速道路リニューアルプロジェクト(機能の向上と長寿命化)

高速道路のネットワーク機能を長期にわたって健全に保つため、老朽化した橋りょうの対策工事やトンネルの補強工事などを実施しています。令和3年度上期においては、東北自動車道 国見IC～白石IC間の大平橋(下り線)など15橋の床版取替工事に着手し、9橋の工事が完了しました。



おおひらばし
東北自動車道 大平橋(下り線)の床版取替工

【関連事業】

■SA・PA商業施設のリニューアルオープン

お客さまへのサービス・利便性の向上のためSA・PAのリニューアルを進めております。令和3年度内に21店舗を計画しており、9月末時点で8店舗が完了、残る13店舗についても年度内のオープンに向けて計画的に進めてまいります。リニューアル工事に際しては、お客さまへの影響を最小限に抑えるよう実施してまいります。



にしせんぼく
西仙北SA(上り線)



はなわ
花輪SA(上り線)